日本水道新聞

発行所
日本水道新聞社
本社：〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-9
TEL 03(3264)6721
FAX 03(3264)6725
編集部直通 03(3264)6722
大阪：〒541-0051
支社 大阪市中央区備後町3-3-9
TEL 06(6125)3630
FAX 06(6125)3866
https://www.suido-gesuido.co.jp

神東塗料不正問題

一部異形管で自粛続く

工期遅れに不安の声も

日本水道協会規格「水道用ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗料」（JWWA K139）の認証品における神東塗料の不正問題は、日水協による該当資機材の安全性と衛生性の確認により、資機材の出荷と工事再開が進む。直管の出荷が戻りつつある一方、一部異形管・バルブは出荷できない状態が続いているほか、作業員確保が困難となり工事再開に支障をきたす事例も出ており、依然として今後の事業影響が懸念される状態が続く。一部工事への影響とともに、今後の資機材の出荷自粛の状況によっては配管が完了しても工期内に通水できない事態も想定され、工期の年度繰越を懸念する声も聞かれる。日水協では会員等からの要請を踏まえて対応状況を随時発信。一刻も早い正常化に向け、出荷自粛要請が継続されている塗料・資機材の安全性と衛生性の確認作業が急がれる。【関連記事6面】

■出荷自粛解除資機材の取扱い

日本水道協会では、17日に開かれた工務常設調査委員会と衛生常設調査委員会の合同会議を受けて同日夜、既存の試験結果資料から厚生労働省の「水道施設の技術的基準を定める省令」で定める衛生性が確認できた塗料の型式「クボタコートDip#300」「クボタコートEM#1001NT」を使用する資機材の取扱い方針を示した。

この2型式を使用する資機材について、すでに日水協の検査を合格している資機材はそのまま検査合格品とし、これから検査する資機材の製品規格についても、各資機材の製品規格に規定する検査項目を満足していればJWWA規格品とするとした。

本措置は7月31日までの暫定措置となる。同日の会合では、この期間の設定理由について、指定外原料が使用された型式は「水道施設の技術的基準を定める省令」への適合が確認されたものもK139の認証継続は困難であることから、資機材メーカーにおいて使用塗料の変更が検討されることを想定し、その対応に必要な期間などを勘案した旨の説明があった。

■出荷自粛要請中製品の今後の取扱い

日水協は同日、出荷自粛が続くK139認証品10型式を用いた検査資機材の今後の取扱い方針についても公表した。

まず、出荷自粛該当塗料については、「水道施設の技術的基準を定める省令」で定める浸出試験結果で衛生性が確認されることが、自粛解除の条件となる。すでに出荷済みであっても、該当製品を用いた資機材は出荷自粛要請の対象品となる。

浸出試験結果で該当塗料の衛生性が確認されれば、その塗料を使用する資機材を検査合格品として取り扱い、出荷自粛要請を取り下げる。

一方、押輪や鉄蓋など水道水に接水しない資機材については、衛生性に影響がないことから、規定検査項目を満たせばJWWA規格品とする。

これらについても7月31日までの暫定措置となる。試験は40～55日の期間を要し、3月中旬から順次完了する見通し。

■出荷自粛製品リストを公表

不適切行為対象製品（12型式）のうち10型式については、技術基準省令における衛生性が確認できず、これから全項目の浸出試験が行われる。これらの塗料を使用した検査合格品については、水道水に接水しない押輪・鉄蓋等を除き、各メーカーによる出荷自粛が続いている。

具体的な影響をユーザーに伝えるため、関係工業会3団体（日本ダクタイル鉄管協会、日本ダクタイル異形管工業会、水道バルブ工業会）は、会員会社の協力のもとで出荷自粛製品のリストを作成し日水協に提供。日水協は18日に同日17時時点のリストを公表した（その後19日17時時点の内容に更新）。

リストには出荷自粛製品の▽製造メーカー▽形式▽製品名▽口径▽備考――の5項目が掲載されている。作成に当たっては、ダク協が直管類、異形管工業会が異形管類、バルブ工業会がバルブ類の情報を取りまとめた。

19日17時時点のリストによると、直管に出荷自粛製品はない。異形管は4社の計34製品、バルブは4社の計4製品が出荷自粛となっている。

■利用者への発信

本件を受け、水道利用者からは健康影響が不安視され、全国の水道事業体の管路工事にも大きな影響が出ており、各事業体は利用者・関係者への情報発信を図っている。

大阪市水道局では、14日に第1報をHPで公表。事案の概要と水道水への影響の可能性を図解するとともに、水道水質は定期水質検査で確認されていることなどを周知した。また、工事については、計画的な工事については原則停止するものの、緊急修繕対応は実施する方針を明示した。

盛岡市上下水道局では、今年度の全工事箇所で緊急の水質検査を実施し、過去の水質検査結果と変化がなく異常が見られないことをHP等で市民に周知した。

■工事の状況

一部塗料の衛生性の確認とこれらの塗料を使用した資機材の自粛要請の解除を受け、水道事業体では続々と工事を再開した。しかし、作業人員や重機などの手配に影響が出ており、スムーズな再開が困難な事例もある。

通水作業を見合わせて配管工事を進めた事業体や、影響のない工事を前倒して工程変更を行った事例など、現場ごとの試行錯誤も見られた。

一部の異形管資機材等の出荷自粛が続く中、工事進捗等への影響が現況の課題の一つとなっている。また、配管工事のみ先行して進めた場合でも、一部資機材の自粛が3月中旬まで続いた際には通水作業が年度末に集中することが予想され、次年度への工期繰り越しの懸念が高まっている。緊急修繕の対応については出荷自粛中の資機材を使用せざるを得ないケースもあり、事業体の現場では厳しい判断が迫られている。

日水協 神東塗料のK139認証品および同品を使用した検査合格品の出荷自粛解除の対応

㋐ 臨時立会検査で不適切行為がないと確認できたもの	
不適切行為がないものは、速やかに自粛要請を解除	→14日、16日に実施済
㋑ 既存資料で安全性が確認できたもの	
規格審議時に行った浸出試験成績書等の既存の資料で安全性を確認できたものは、主要水道事業者及び学識経験者等の意見を聞き、順次自粛要請を解除	→17日に実施
㋒ その他のもの	
改めて日水協職員立会によるサンプリングを行った後、技術基準省令の全項目試験を行い、安全性が確認できた製品から順次、自粛要請を解除	→対応中

神東塗料 JWWA K139 不適切行為問題 1月7日以降の経緯（これ以前の経緯は前号参照）

1月7日	神東塗料	日水協に不適切行為を文書で報告 合わせて、取引先メーカー等に状況説明
	日水協	神東塗料にK139認証品全製品(24型式)の出荷自粛を依頼
	日水協	関係工業会に神東塗料のK139認証品を使用した検査合格品の出荷自粛を依頼
1月11日	日水協	第一報　会員等に対応状況を周知
全国の事業体でダクタイル鋳鉄製品を使用した工事停止等の動きが広がる		
1月12日	神東塗料	不適切行為対象製品(12型式)を公表
	日水協	判定委員会で不適切行為対象製品の認証の一時停止を決定
	日水協	神東塗料に不適切行為対象製品の品質認証マークの使用禁止・出荷停止等を通知
	日水協	第二報　対応状況を周知し、出荷停止となる12型式を公表
1月13～14日	日水協	神東塗料の工場調査
1月14日	神東塗料	特別調査委員会の設置、日水協認証品への処置を公表
	日水協	神東塗料の不適切行為の概要と今後の対応を公表
	日水協	工場調査の結果、不適切行為対象外のK139認証品（12型式）を使用した検査合格品の出荷自粛を取り下げ ㋐
1月16日	日水協	同じく クボタコートDip#300（速乾型 黒・グレー）を使用した検査合格品の出荷自粛を取り下げ ㋐
1月17日	神東塗料	㋐該当製品の出荷停止解除を公表
	日水協	工務常設調査委員会・衛生常設調査委員会を合同開催 不適切行為対象製品のうち クボタコートDip#300、クボタコートEM#1001NT の衛生性を確認、当該製品を使用した検査合格品の出荷自粛を取り下げ ㋑
	日水協	第三報　㋑該当製品を使用した検査合格品について、検査済および今後検査受検する資機材の取扱いを公表
	日水協	第四報　出荷自粛要請継続中の㋒該当製品を使用した検査品の取扱いを公表（19日に追補）
1月18日	日水協	第五報　出荷自粛製品リストを公表（19日、第六報でリスト更新）
資機材出荷が戻りつつあり工事再開の動き　一部異形管の出荷停止等により影響続く		

利根川・荒川水系

渇水対応 流域一帯で

タイムライン運用開始

国土交通省関東地方整備局・水資源機構・利根川水系渇水対策連絡協議会・荒川水系渇水調整協議会らは、利根川・荒川水系について、関東初となる「渇水対応タイムライン」を策定し、運用を開始した。東京2020大会に向けて策定された渇水対応行動計画を土台とし、渇水の初期から徐々に深刻化していく状況（渇水シナリオ）とそれに応じた影響・被害の想定、被害軽減のために講じ得る対応策を各流域関係者の立場ごとに時系列でまとめた。

渇水対応タイムラインは、政府の気候変動対応計画や水循環基本計画において、渇水への対応策として策定を推進していく旨が記載されている。

利根川・荒川水系では、ダムをはじめとする水資源開発施設の整備・運用で安定的な水供給が行われているが、平成28・29年には取水制限を伴う渇水が発生したほか、近年の気候変動等に伴う今後の渇水リスク上昇が懸念され、流域関係者間の連携や地域一体による異常渇水等への対応の重要度が増している。

タイムラインの策定によって関係機関の役割分担の明確化や相互の連絡強化、渇水の深刻度に先行した事前準備などが可能となり、水系・地域全体の渇水対応力の維持・向上、被害最小化が期待される。

タイムライン策定の土台となった東京2020大会の渇水対応行動計画は、国・水資源機構・関東1都6県で組織する「東京2020オリンピック・パラリンピック渇水対策協議会」が令和元年8月に策定し、大会の延期を受けて昨年4月に改定された。これを踏まえて大会開催前に実施した対策の効果と十分な降雨に恵まれたことにより、大会期間中の渇水リスク回避につながった。

タイムラインでは、平常時や渇水注意期（利根川水系＝上流9ダムの貯水率70～50%程度、荒川水系＝4ダムの貯水量7000～4800万立方㍍）から取り組む「水資源の確保対策」と、主にその後の渇水初期以降に取り組む「継続的な供給の確保対策」を挙げた。

盛り込まれた主な取組み内容は次の通り。

【水資源の確保対策】協議会を活用した情報共有および対策・調整▽洪水期におけるダムの弾力的管理▽北千葉導水路など下流利水施設の運用（利根川水系）▽荒川水利用高度化施設の運用（荒川水系）▽荒川余剰水を活用する武蔵水路の新たな運用（利根川水系）▽既存施設の徹底活用

【継続的な供給の確保対策】全国の水道事業者からの給水支援▽節水に関する広報▽噴水等への給水自粛・中止要請

このうち水道事業者からの給水支援については、深刻な渇水が生じるおそれがある際に日本水道協会と情報共有し、断水時には日水協のスキームで給水支援を実施するとしている。

タイムラインに掲げた対策等の実施は、利根川水系渇水対策連絡協議会、荒川水系渇水調整協議会で協議し決定する。

展示会出展者を募集中

アジア・太平洋水サミット

2月14日まで

第4回アジア・太平洋水サミット（4thAPWS、4月23～24日熊本市）の開催に当たり、熊本市運営委員会事務局では公式サイドイベントとなる現地展示会の出展企業を募集している。受付は2月14日正午まで。

詳細は次の通り。

【日時】令和4年4月23～24日　熊本城ホール1階「展示ホールB」

【応募要件】4thAPWSの趣旨を理解する活動団体および水や自然環境に関する機器・システム・サービスなどを製造または取り扱う企業、国際機関、大学、自治体、市民団体等である▽展示内容が水や自然環境に関するものである▽展示内容が原則として外部に公開され、誰でも参加できるものである――こと等

【出展料金】基礎小間（パネル付き設置区画）＝50万円（協賛者および日本水フォーラム正会員企業・団体は40万円）▽スペース小間（パネルなし設置区画）＝40万円（同30万円）

【募集小間数】30小間（1団体・企業による複数小間の応募も可能）

募集ガイドラインの閲覧や申込書等の入手は熊本市環境局HP「新着情報一覧」から。

◇　◇

4thAPWS事務局を務める日本水フォーラムでは、会期中に会場内で実施する一般公開セミナー・シンポジウムの主催者を募集している。受付は1月31日正午まで。

また、4thAPWS開催日の前後などに別会場（熊本市外を含む）で開催される水関連のイベントを4thAPWS関連イベントとして認定する。登録料は無料。受付は3月23日正午まで。

詳細は日本水フォーラムHP「最新情報」を参照のこと。

規格遵守の徹底を要請

日水協

日本水道協会は18日、品質認証センター長名で塗料等の認証取得者に対して規格遵守の徹底を要請する事務連絡を発出した。

事務連絡ではJWWA K139に関する不適切事案により、関連製品の出荷停止などの影響が発生したことに触れ、JWWA規格の認証取得者に対して規格遵守の徹底を要請している。

水滴

繁忙期に衝撃も迅速対応で直管出荷徐々に正常。工事再開へ光。

◇

異形管やバルブなど一部製品いまだ自粛。工事進捗に陰差す。

◇

工期年度繰越の懸念も。ヒト、モノ動くも通水、完工は不透明。

◇

経験を教訓に。サプライチェーンのリスクマネジメント再編を。

◇

影響続く水道界。衛生第一に英知を結集、望まれる早期正常化。

日本水道新聞 電子版
トップページはこちら
購読申込受付中

管網維持管理・GIS・料金収納業務のお手伝いをさせていただきます。
フジ地中情報株式会社
http://www.fuji-si.co.jp

簡単・ラクラクメンテナンス空気弁
町野式口金内蔵 ラクエア

現場に町野式口金の持ち込み不要
1．約15秒で分解可能。清掃作業が簡単に
2．内部部品を取り出せば、洗管・応急給水・水圧測定と幅広い用途に使えます
質の良さが水に出る。 SGS
株式会社清水合金製作所
滋賀県彦根市東沼波町928 TEL 0749-23-3131
札幌・青森・仙台・東京・名古屋・大阪・中国四国・九州

MEIWA 明和工業
水管橋 仮設配管
鋼管 空気弁
応急給水機器 建築配管
ポンプ設備
水門 機械加工 組立 管
各種制御盤 橋梁補修
機械器具 電気工事 鋼構造物
管路工事 各種設備工事

特集
新年度水道関係
政府予算案
＝2～4面＝

SEKISUI
配水管から第一止水栓まで
すべてを耐震化

エスロハイパーAW 給水システム
積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー 管材事業部
エスロンタイムス https://eslontimes.com

TAISEI KIKO 2022
KEEP THE LIFE LINE
フランジ補強金具
TK-06F
フランジ継手の漏水を補修、フランジ継手部の耐震補強

特長
■ 通水状態にて取付可能
■ ボルト交換と分割タイプ本体の取り付けのみで施工が容易
■ 作業はスパナ1本
■ 3DkNの引張に対応
TK-14FS
フランジ継手部の耐震性能を向上

岡山市水道局 共同開発・共同出願
特長
■ 本製品を取り付けることにより、フランジ継手部が3DkNの離脱阻止性能を発揮
■ 金具の六角ボルトを締めつけるだけの単純構造
■ 仕切弁の座など、フランジ外周面が円形でなくても取り付けが可能
■ フランジボルト取替時など応急治具としての使用も可能
政府6省による第2回「インフラメンテナンス大賞」受賞製品
※本広告掲載の、製品の外観・仕様は予告なく変更する場合があります。
水道管路機器のパイオニア、不断水の
大成機工株式会社
本社/大阪市北区梅田1丁目1番3
TEL.06（6344）7771（大代表）
www.taiseikikko.com